

## 奨学生の声

これまでに頂いた近況報告などから一部抜粋して奨学生の声をご紹介します。

### 近況報告

まずは、来年の春から、兵庫県内の市役所の土木職員として働かせていただくことが決定いたしました。高校生の頃から、公務員として、地域の住民の方々が暮らしやすい街づくりや災害に強い街づくりに携わることを志してきましたので、そのスタートラインに立てることを非常に嬉しく思います。

ここまで来ることができたのは、もちろん私一人の力ではなく、今まで支えてくれた家族、そして大きな志を持って支援してくださった志財団の存在があってこそものだと思います。志財団は、金銭的な支援にとどまらず、実際に現場を見て学ぶことのできる機会や、社会で活躍されている先輩方のお話を聞ける機会をたくさん与えてくださいました。

(2019年度奨学生／卒業生)

もう4回生の冬に差し掛かり、目先には「卒業」という文字が浮かんできますが、これまでの学生生活を支えてくださった、「志・建設技術人材育成財団」様には心より感謝申し上げます。学業に集中して取り組めたことは、金銭面ではもちろんのこと、年に二回開催してくださったセミナーや現場見学などがあったからこそだと感じています。自分の大学以外の建築学生との交流はあまりしてこなかったのでセミナーや現場見学で顔を合わす奨学生の方たちを見ていると、自分も頑張ろうという気持ちが湧いていました。仲間がそれぞれ別の環境で成果を収め学業に励んでいる姿をみるととても背中を押してくれているように感じていました。セミナーでは大学の授業では学ばなかった身近な問題・テーマを取り上げてくださったりして新たな知見が広がりました。とても良い影響を与えてくださったこのような素晴らしい企画があったからこそ、学業に楽しく真剣に取り組むことができました。本当にありがとうございました。(2020年度奨学生)

**奨学生を目指す後輩の皆さんへ向けて、応援のメッセージをお願いします。**

・自分が学びたいと思っていることを実際にその分野で活躍されている方から教えていただくことが出来ません。一緒に頑張りましょう。

・奨学金による金銭的援助だけでなく、現場の研修や実際に携わっている人の講習など様々な体験をさせていただけます。多くの学びを得るとともに地元の兵庫県をより好きになると思うので頑張ってください。

### 奨学生からのメッセージ

**当財団の奨学生に応募しようと思ったきっかけと、選考を通して得た「気づき」や「学び」について教えてください。**

・高校の先生から紹介され、この財団を知りました。自分自身、兵庫県に就職したいと思っていましたし、現場研修会で他の学生にない機会があることを魅力に感じました。

・地元の財団であることに加え、将来兵庫県の企業や県庁に就職したいという自分の夢と財団の目的とが合致していたため。

・1次選考の書類で自分の気持ちを言葉で書くことで、将来自分がどのような形で建築を通して働きたいかということに気付くことができました。自分の気持ちを伝えた上で奨学生に選んでいただけたことは、自信にもなりました。

**当財団からの奨学金を活かして、いまどのような勉強・研究・活動等を行っているか教えてください。**

・防災の中でも特に地震対策の分野を学びたいと思っています。

・現在は来年度から始まる研究に備え、専門科目の基礎を復習しております。

・一年次を終了し、図面の書き方や専門知識などを得ることができました。また、奨学金を生活費に充てることで学業に集中することができ、学科内でも良い成績を収めることができました。

・サークル活動や委員会活動に時間を充てることができるため、建築CADのソフトの使い方を学び来年度から始まる授業の予習演習をしたり、学友会の運営や企画をすることで自分のリーダーシップや仲間と協力する力を養っています。